

がん相談支援センター インフォメーション VOL.3

チーム医療の充実を目指して!

八尾市立病院は、平成21年4月に大阪府が創設した新たな制度に基づき、大阪府の「がん診療拠点病院」に指定されました。これまで以上に安心・安全かつ高度ながん診療を提供するために“チーム医療”の充実に取り組んでいます。今回は院内の様々なチーム医療活動についてその一部をご紹介します。

緩和ケアチーム

がん等の病気を抱える患者さんやその家族の方の QOL（生活の質）向上を目的に、主治医や担当看護師と協働しながら、痛みやその他の身体症状の軽減や、精神的・社会的・スピリチュアルな問題の支援に専門的な知識や技術を提供する、それが“緩和ケアチーム”です。外科系・内科系・麻酔科の専門医や看護師・薬剤師・医療ソーシャルワーカー・臨床心理士が協力し、「がん等で苦しむ患者さんを一人でも少なくしよう!!」という理念の実現を目指し活動しています。現在の活動は、週3回のラウンド（回診）と週1回の合同カンファレンスを中心としており、依頼患者さんへの適切なケア・支援に取り組んでいます。また院内研修会等を通じ、病院全体に緩和ケアの知識と役割の浸透を図っています。悩みや不安、問題を抱えている方は遠慮なく主治医や担当看護師にご相談ください。

院内感染対策チーム(ICT : Infection Control Team)

ICT（アイ・シー・ティ）と呼ばれる院内感染対策チームは、安全・安心な医療を提供する上での“縁の下の力持ち”的な存在です。当院のICTでは、院内感染の発生の芽を摘むために、院内ラウンド等による監視活動や改善活動、各種マニュアルの作成や研修会の開催による啓蒙活動、そして抗菌薬・消毒薬の適正使用の推進活動等に取り組んでいます。

特にがんの治療中の方は抵抗力が弱まっているケースが多く、感染症を発症すると重症化する恐れがあるため、感染対策チームの役割は重要なものがあります。

栄養サポートチーム(NST : Nutrition Support Team)

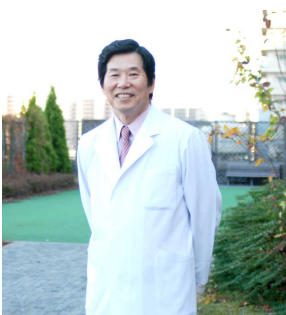
栄養管理は基本的医療の1つです。栄養状態の悪化は病気や手術からの回復の遅れを招き、日常生活の動作や QOL（生活の質）の低下につながります。また、手術後の合併症・感染症・褥瘡などの増加リスクも高まります。当院では平成15年10月にNST委員会を設置し、医師・看護師・薬剤師・管理栄養士・臨床検査技師等によるサポートを行っています。また最近では嚥下訓練についての知識を有するスタッフにも参画してもらい、できるだけ「経口（口から）」で摂食いただけるよう、担当看護師への研修にも積極的に取り組んでいます。

チーム医療発表会

当院では、良質で高度な医療を実現する1つの手段として、チーム医療の活動状況や、取り組み課題についての実践状況等を知ることが目的とした「チーム医療発表会」を開催しています。誌面で紹介したチーム以外にも参加し、また多くの職員が出席しております。



各発表に対し盛んな質疑が飛び交い、院内における「チーム医療」の活性化につながる貴重な機会となっております。



長年がん診療にかかわる中で、いかに「チーム医療」が重要で医療の質向上に貢献するかということを実感しておりました。着任当初よりスタッフに働きかけ、チームの再編成や、機能の活性化に取り組んでまいりました。また、「チーム医療発表会」の機会を設け、院内全体に広くチーム医療の重要性を浸透させております。現在ではチームの活動が活発化し、職種を越えたディスカッションを重ね、課題・症例に対応する体制が充実してきています。高度で安全・安心な医療の提供のためにスタッフ一丸となって取り組んでまいりますのでよろしくお願いいたします。

院長 佐々木 洋

インタビュー ～チーム医療を支えるスタッフ達～

がん診療・チーム医療では医師以外の専門スタッフの関わりも重要となります。今回は様々な職種のスタッフにお話を聞きました。

津江 かおる（通院治療センター看護師）

Q. 通院治療センター（化学療法）での看護師の役割について教えてください。

A. 患者さんに安全・安楽な抗がん剤投与を実施することです。また個々の患者さんごとに抗がん剤の副作用についての対策を指導することです。

Q. がん患者さんのケアを担当される中で留意していることは？

A. 患者さんががんと上手につき合うことができるように、常に患者さんに寄り添い、ともに同じ方向を向いてサポートするよう心掛けています。

Q. 看護師として今後どのようなことに取り組みたいと考えていますか？

A. 患者さんご自身がセルフケアできるよう支援するために、より個別的に患者さんの状態を観察・評価したうえで具体的なケア・援助を行っていききたいと思います。



通院治療センター(化学療法室)

Q. 繊細・慎重な対応が必要な仕事だと思いますが、プライベートでの気分転換はどのようにされていますか？

A. カフェオレを飲みながら好きな音楽を聴き、お気に入りの葉祥明（ようしょうめい）さんの絵本を読みながら「心の浄化(?)」に努めています。

Q. 最後に通院治療センターとして、患者さんに伝えたいことを一言お願いします。

A. 烏野先生を中心に看護師5名で、外来化学療法を受けられる患者さんへの「安全」と「安楽」を確保するとともに、アットホームな温かい看護を心掛けています。相談したいことがあれば遠慮なくお声掛けください。

佐藤 浩二（がん化学療法認定薬剤師）

Q. がん化学療法認定薬剤師について、どのような資格か教えてください。

A. がん化学療法について専門的な講義を所定単位受け、その他の条件を満たした上で試験に合格した薬剤師に対して日本病院薬剤師会からがん薬物療法に精通した薬剤師であると認定される資格です。

Q. 「がん診療」への薬剤師の関わりを教えてください。またチーム医療の一員としての留意点は？

A. がん化学療法の治療計画の処方点検、電子カルテへの登録・管理、抗がん剤の適正使用のためのスタッフに対する医薬品情報提供、入院患者さんへの薬剤管理指導業務、抗がん剤注射の無菌調製、臨床試験コーディネーター及び臨床試験のデータ管理、緩和ケアチームへの参加など様々な場所で活動しています。がんの治療方法は日進月歩ですので、薬物の知識については常に最新情報を取り込んでおくこと、薬剤師の立場から病院全体の薬物治療に関する間違いを防止することに留意しています。また、抗がん剤だけではなく患者さんにかかわる全ての薬剤についても注意を払っています。

Q. 薬剤部（薬剤師）として今後取り組みたいことは？

A. 患者さんの状態・検査データなどを細かくチェックし、さらに抗がん剤の適正使用、副作用の早期発見など、がん化学療法に対する質的な向上を目指していきます。また、がん化学療法の事故防止のためのリスクマネジメント活動も推し進める必要があると感じています。

Q. 様々な取り組みをされる為には健康維持も重要ですね。リフレッシュ方法があれば教えてください。

A. 家の大掃除。調子がよければさらに風呂掃除も（笑）

Q. 最後になりましたが、八尾市立病院の薬剤部としてしてのアピールをお願いします。

A. 注射薬自動払い出しシステム、注射調製業務ではクリーンルーム内にクリーンテーブル、安全キャビネットなど他病院に先駆けて最新の機器・設備を備えました。機器を扱うスタッフも他病院で研修を行い、優れた技術を身につけています。今後もその設備を駆使して医療の質の向上に貢献していきます。



注射薬自動払い出しシステム(アンブルピッカー)

長井 直子（臨床心理士）

Q. 臨床心理士とはどのような資格なのですか？

A. 文部科学省認可の財団法人「日本臨床心理士資格認定協会」が認定する資格です。臨床心理学を基礎とした相談や支援を専門的に行います。

Q. 普段はどのような活動をされているのか教えてください。

A. がん相談支援センターでは、支援相談員として窓口相談を担当し、精神的不安がある患者さん・ご家族の継続的な相談をお受けしています。

また“緩和ケアチーム”にも所属していますので、回診に同行し、気分の落ち込みが強い方等を診させていただいています。必要に応じて患者さんやご家族の思いを医師に伝え、身体だけではなく“こころ”のケアを含めたチーム医療が実践できるよう取り組んでいます。

Q. がん患者さんのカウンセリング等で留意していることはありますか？

A. がん患者さんの場合は「具体的なこころの問題を抱えていて解決したい」という方より、漠然とした不安や怖さ、気分の落ち込みを感じてこられる方が多いので、その不安に寄り添えるよう、そして少しずつお気持ちの整理ができるように、と心がけています。

Q. 今後どのようなことに取り組んでいきたいと考えていますか？

A. 個別のカウンセリングや心理療法にとどまらず、グループ療法も実施していきたいと考えています。

Q. ご自身の「こころのケア（?）」のために何かされていますか？

A. 休日に友人と出かけたり、ホットヨガでたっぷり汗を流してすっきりしたりしています。

Q. 最後に、臨床心理士としてアピールを一言お願いします。

A. 「カウンセリングで何を話して良いのか分からない」と最初はためられる患者さんもおられますが、どう言葉にして良いのか分からない時には、“何も話さずにゆっくりと一緒に時間を過ごす”ということもしています。一人で悩み・不安を抱え込まず、お気軽にご相談ください。



お気軽にご相談ください

心理カウンセリングのご案内

臨床心理士は、病院を訪れる患者さんやそのご家族に対し、カウンセリングや芸術療法などの心理療法や心理検査などを用い専門的援助を行っています。

様々な心の悩みや問題の改善に向けて一緒に考えていきましょう。



【料金】 1回(50分) 3,000円(税込)

当院での受診(受診歴)の有無は問いません。お気軽にご相談ください。

入院中の患者さんは無料です。

臨床心理士によるカウンセリングですので薬の処方はいたしません。

がん患者さん以外の相談もお受けしています。

ミニ勉強会 「心の痛みを和らげるために」

臨床心理士からのお話と、皆様と一緒にできるワークを予定しています。

参加される方は好きな雑誌 1~2冊をご持参ください。

平成22年3月15日(月) 14:00~15:00 当院2階栄養指導室にて

お問い合わせ・申し込みは……

がん相談支援センター TEL.072-922-0881



がん相談支援センターからのお知らせ

【インフォメーションコーナー】

1階まちなかステーションの図書スペースの一角に「がん相談インフォメーションコーナー」があります。がんに関するパンフレットや書籍を設置していますので、ご自由に閲覧してください。

書籍は昨年末から設置したところですが、今後充実させていきますのでご期待ください！

パンフレット類は2階がん相談支援センター前にも設置しています。



【がん関係の図書、公開講座のDVDの貸し出し】

インフォメーションコーナーの図書、これまで開催した公開講座のDVDを貸し出ししています。ぜひ、ご利用ください。

受付場所：2階がん相談支援センター

不在の場合は外来診療受付のスタッフにお声掛けください

貸し出し期間は2週間以内です。



過去の公開講座

- | | |
|---------------|------------------------------------|
| 第1回（平成18年10月） | 胃がん・大腸癌の診断と治療 ～がんは怖くない～ |
| 第2回（平成20年1月） | がんは“ここまで治る” |
| 第3回（平成20年10月） | 胃がんの診断と治療 |
| 第4回（平成21年1月） | 肝がん・胆道がん・膵がんの診断と最新の治療について |
| 第5回（平成21年10月） | 乳がんについて |
| 第6回（平成21年10月） | からだに“やさしい手術”（腹腔鏡下手術）について |
| 第7回（平成21年11月） | メタボシリーズ ～あなたのメタボは大丈夫？ |
| 第8回（平成22年1月） | がん診療を支えるチーム医療 ～抗がん剤治療（化学療法）をはじめとして |

がん相談支援センター

受付時間：月曜日～金曜日（祝日を除く） 午前9時半～午後4時半

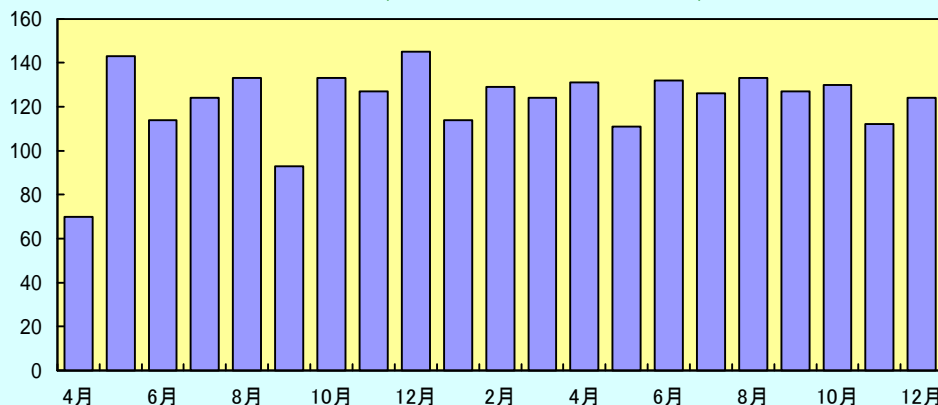
対象者：中河内二次医療圏（八尾市、東大阪市、柏原市）を中心とした地域の方。当院での受診（受診歴）の有無は問いません。

ご本人、ご家族、知人、医療関係者など、様々な方からの相談をお受けいたします。

費用：無料（ただし、セカンドオピニオン外来・継続の心理カウンセリングは有料です）

受付・お問い合わせ：2階 がん相談支援センター TEL. 072-922-0881【代表】

相談実績（20年4月～21年12月）



毎月100件を超えるご相談に対応しています。お気軽にご利用ください。